

## 臥牛サロン 新企画

- 複数の曲に共通するテーマを解説し、各曲の謡と仕舞の見どころをたっぷりお楽しみ頂きます。
- サロンの開催は、奇数月（隔月）の下旬となります。
- 時間：18:30-20:00、参加費：自由席2,500円、椅子指定席3,000円
- **新企画初回： 7月29日（月）18:30～20:00**



### 出演者



田崎 甫  
はじめ

シテ方宝生流職分  
1988年 神奈川県生まれ、  
叔父の宝生流能楽師 田崎  
隆三に師事。2011年東京藝  
術大学音楽学部邦楽科卒業、  
20代宗家宝生和英の内弟子。  
同年金札で初シテ。2018年  
独立。九段幸宝会主宰。  
2019年4月東京藝術大学音  
楽学部教育研究助手を拝任。



葛野 りさ  
かどの

シテ方宝生流職分  
平成元年生、富山県  
富山市出身。20代宗  
家宝生和英に師事。  
平成23年東京藝術大  
学音楽学部邦楽科卒  
業。平成24年清経ツ  
レにて初舞台を踏み、  
平成29年田村で初シ  
テ。

### 臥牛サロン

第13回 7月29日（月）18:30～（新企画）  
第14回 9月29日（月）18:30～（新企画）

### お稽古：臥牛敷舞台にて【個人レッスン：謡・仕舞】

6月26日（水）  
7月10日（水）  
7月29日（月）

お時間はお問合せ下さい。  
※見学・舞台体験歓迎

### 臥牛サロン次回ご予約・お問合せ

☎ 0545-38-9939 (たざき)

☎ 090-2757-0620

二〇一九年六月十七日(月)

## 臥牛サロン 第十二回

一周年特別企画

# 能における 様々な成仏の形

プロデューズ

田崎 甫

(宝生流能楽師)

於 臥牛敷舞台

富士宮市粟倉南町一三二

舞台当主 高橋千洋

(富士宮市中央町在住)

一 挨拶・独吟「三井寺」 (鐘ノ段)

二 仕舞

「藤」 藤の精 草木国土悉皆成仏  
(そつもくこくど)  
しつかいじようぶつ

「江口」 キリ 遊女 普賢菩薩

「融」 源融の亡霊 過去の栄華

三 連吟「羽衣」 キリ

四 二年目からの臥牛サロン新企画

### 三井寺 鐘ノ段(かねのだん)

- 1 かほどの聖人なりしだに 月には乱るる心あり  
 ましてや拙き狂女なれば ゆるし給へや人々よ  
 3 煩惱の夢を覚すや 法の声も静かに先初夜の  
 鐘を撞く時は 諸行無常と響くなり  
 5 後夜の鐘を撞く時は 是生 滅法と響くなり  
 7 晨朝の響きは 生滅滅已 入相は 寂滅  
 為楽とひびきて菩提の道の鐘の声  
 9 月も数そひて 百八煩惱の眠りの 驚く夢の  
 世の迷ひも はやつきたりや後夜の鐘に  
 11 我も五障の雲晴れて  
 真如の月の影を眺めをりて明かさん

### 藤藤の精

- 13 かかれる松にうす花の かかれる松にうす花の  
 色紫の 雲の羽袖をかへす舞姫  
 15 歌へや唄へ折る柳落つる梅あるひは花の  
 鶯の囀りの 声の匂ひも深みどり  
 17 英遠の濱風多枯の浦なみ  
 打ちちらし吹き拂ひ花も飛び行く胡蝶の夢の  
 春のみじか夜明るる横雲に光影さす朝日山の  
 19 光影さす朝日山の梢に青葉や 残るらん

### 融(続き1)

- 41 月宮殿の白衣の袖も  
 三五夜中の新月のいろ 千重ふるや  
 43 雪を廻らす雲の袖 さすやかつらの枝々に  
 光を花と ちらすよそほひ  
 45 ここにも名に立つ白河の浪の  
 47 あら面白や曲水の盃  
 うけたりうけたり遊舞の袖  
 49 あら面白の遊樂や その名月の其中に  
 まだ初月の宵々に  
 51 影も姿もすくなきはいかなる謂なるらん  
 それは西岫に 入日の未だ近ければ  
 53 其影にかくさるる  
 55 たとへば月のある夜は星の薄きが如くなり  
 57 青陽の春の始めには 霞む夕べの遠山  
 59 黛の色に三日月の 影を舟にも譬へたり  
 又水中の遊魚は 釣針と疑ひ  
 雲上の飛鳥は 弓の影とも驚く  
 一輪も降らず 萬水も上らず  
 鳥は池辺の樹に宿し 魚は 月下の波に卧す

### 江口(えぐち)キリ

- 21 実相無漏の大海に 吹かねども  
 五塵六欲の風は  
 23 隨縁真如の波の たたぬ日もなしたたぬ日もなし  
 浪のたちるも何故ぞ  
 25 假なるやどに 心とむる故心とめずは浮世もあらじ  
 人をも慕はじ まつ暮れもなく別れ路もあらし吹く  
 27 花よ紅葉よ月雪の降ることも あらよしなや  
 思へば假の宿 思へば假の宿に  
 29 心とむなと人をだに 諫めしわれなり  
 これまでなりや帰るとて  
 31 すなはち普賢菩薩とあらはれ船は百象となりつつ  
 光と共に白妙の白雲に打ち乗りて西の空に行き給  
 33 富有難くぞ覚ゆる有難くこそは覚ゆれ  
 融(とおる)源融の亡霊

### 融(とおる)源融の亡霊

- 33 忘れて年を経しものを 又いにしへに帰る浪の  
 みつ塩竈の浦にして 今宵の月を陸奥の  
 35 千賀の浦曲も遠き世に 其名を残すまうちきみ  
 融のおとどは我が事なり  
 37 我塩竈に心をよせ あの籬が嶋の松陰に  
 名月に舟を浮かめ

### 融(続き2)

- 59 聞くともあかじ秋の夜の  
 鳥も鳴き 鐘も聞えて  
 61 月もはや 影かたむきて明方の  
 雲となり雨となる 此光陰に誘はれて  
 63 月の都に入り給ふ粧ひ  
 あら名残をしの面影や名残をしのおもかげ

### 羽衣キリ

- 65 東遊の数々に 東遊の数々に  
 其名も月の宮人は 三五夜中の空にまた  
 67 満願真如の影となり 御願円満国土成就  
 七宝充満の寶を降らし  
 69 国土にこれを施し給ふさる程に  
 時移って 天の羽衣 浦風にたなびきたなびく  
 71 三保の松原浮嶋が雲の  
 愛鷹山や富士の高嶺  
 73 かすかになりて天つみそらの  
 霞にまぎれて 失せにけり